



* Open Repositories 2006 日本からの参加者と APSR の Adrian Burton さん。会場前にて。

国際会議 Open Repositories 2006 とクイーンズランド工科大学・オーストラリア国立大学訪問

情報システム課目録情報係 堀越 邦恵

1. はじめに

このたび、最先端学術情報基盤整備事業等に係る調査・研究の一環として、シドニーで行われたリポジトリの国際会議「Open Repositories 2006」に参加しました。また、リポジトリへの登録を大学構成員の義務としているクイーンズランド工科大学とオーストラリアのリポジトリ推進大学の 1 つであるオーストラリア国立大学を訪問し、それぞれ大学のリポジトリへの取り組みと現況について伺いましたので、ここに報告します。

2. Open Repositories 2006*¹

APSR (Australian Partnership for Sustainable Repositories) が主催するリポジトリに関する国際会議です。2006 年 1 月 31 日から 2006 年 2 月 3 日の会期で、シドニー大学で開催されました。

初めの 2 日間はリポジトリ運用ソフトウェア「DSpace」のユーザ会議に参加しました。このなかで、本学理学研究科数学専攻助手行木先生により本学と日本のリポジトリの状況

についての発表が行われ、北海道大学附属図書館「HUSCAP*2」・理学研究科数学専攻の「数学の海*3」・国立情報学研究所の「JuNII*4」についての説明がありました。

3日目のフォーラム「The Well-Integrated Repository」では、リポジトリと大学内の各サービス（例：e-learning システム、学務システムなど）／大学外のリポジトリやその他各サービスとの連携についての話題や、セキュリティ・認証に関するフレームワークについての発表がありました。

4日目のシンポジウム「Managing Openness in Digital Repositories」では、オープンソースソフトウェアやクリエイティブ・コモンズなどのリポジトリの周辺に関する話題や、コンテンツの管理・保存・アクセスの制御などについて活発な意見が交わされていました。

3. クイーンズランド工科大学（Queensland University of Technology : QUT）

クイーンズランド工科大学(QUT)は、学生数約 40,000 人・スタッフ 3,500 人の総合大学（名称に「Technology」とついてはいますが）です。QUT では「研究成果を大学のリポジトリに登録すること」が義務付けされており、世界のリポジトリのなかでも登録増加率はトップレベルにあります。

QUT のリポジトリ「QUT ePrints*5」は 2003 年 11 月末より運営を開始し、2006 年 2 月現在、約 2,600 件の論文が登録されています。登録義務のポリシーは 2003 年 11 月に QUT University Academic Board によって承認・2004 年 1 月から実施されています。「義務」とはいつでも罰則があるわけではなく、このポリシーに従った形で広報等の全学キャンペーンを実施し、リポジトリの認知と登録数向上に日々努めているのだそうです。登録方法についても、研究者は必要最低限の情報のみで登録し、詳しい情報は図書館の目録担当者が登録するなど、研究者の負担がなるべく軽くなるような工夫をしているとのことでした。

4. オーストラリア国立大学（Australian National University）

オーストラリア国立大学（ANU）は学生数約 8,500 人・スタッフ 1,250 人で、年間予算の約 80%を研究に費やしている、研究志向の大学です。

ANU では 2001 年から Eprints によるリポジトリを構築してきましたが、現在 DSpace をベースにした「Demetrius*6」にデータ移行中とのことでした。ANU では論文だけでなく写真や音声などさまざまなデータ形式のものを収録対象として扱っています。リポジトリの収録対象についての考え方を伺ったところ、「特に限定しなければならない理由がない。収録できるものであればどんなものであってもかまわない」と考えているのだそうです。

登録については「義務」にすることはせず、研究者が自発的に登録しているとのことでした。ANU では、新しいサービスはどのようなものであってもまずインフラを整え、良いものであることを宣伝・認識したうえで自発的に使われるべきだ、と考えているそうです。

5. APSR (Australian Partnership for Sustainable Repositories)

オーストラリア唯一の国立大学であり、首都キャンベラに位置することから、オーストラリアの大学関係の政府との交渉については ANU が窓口になっており、APSR についてもその事務局は ANU にあります。このことから、APSR の活動についてもお話をうかがうことができました。

APSR はオーストラリア政府の Innovative Action Plan for Future the System Infrastructure Initiative による 2004 年から 2006 年の 3 年間の期限付きプロジェクトで、ANU、シドニー大学、クイーンズランド大学の 3 大学と、国立図書館、Australian Partnership for Advanced Computing の計 5 機関で構成されており、リポジトリのプロモーション活動に対する支援、ドキュメントのデジタル化及び保存に関する支援や、これらの活動を通して得られた成果を広く社会に還元することを目的としています。Open Repositories 2006 も、ASPR の広報活動の一環として開催されたものです。

各参加機関ではそれぞれ異なったプロジェクトを行っており、その成果は APSR の Web ページで見ることができます*7。期限が切れた後 APSR がどうなるのかは未定ですが、各プロジェクトはそれぞれの大学内でも別途支援を受けているので、APSR がなくなったからといってプロジェクトで行われている研究・開発が終わるということはないのだそうです。

6. おわりに

Open Repositories 2006 を通しての全般的な印象として、「リポジトリ」の考え方が、オープンアクセス運動の一環としての立場から研究者のコミュニティ生成ツールのひとつとしての立場へとシフトしてきているように感じました。また、QUT や ANU の話を聞くにつれ、苦勞しているポイントは日本も海外も同じであり、登録数を一気に増大させる安直な方法というものはなく、地道な活動を続けていくことが一番なのかな、とあらためて感じました。

最後に、今回の訪問の機会を与えてくださった関係者の皆様、訪問先へのアポイントメントやスケジュール調整などをお手配くださいました岡山大学の北條様、現地にて同行くださいました各大学の皆様、会議にて発表してくださいました行木先生、快く送り出してくださいました附属図書館の皆様に心よりお礼申し上げます。

*1 http://www.apsr.edu.au/Open_Repositories_2006/index.htm

*2 <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>

*3 <http://coe.math.sci.hokudai.ac.jp/literature/db/index.html.ja>

*4 <http://ju.nii.ac.jp/>

*5 <http://eprints.qut.edu.au/>

*6 <http://dspace.anu.edu.au/>

*7 <http://www.apsr.edu.au/> の Current Projects で確認することができる